

楽しむ、学ぶ。キャンパスマガジン

日本大学法学部ジャーナル

Journal

vol. 16

2015 October ◯ 2016 January



ジャーナリズムとメディアの教育・研究

特集 ジャーナリズムとメディアの教育・研究

2015 vol.16 October ◯ January

日本大学法学部 Event Schedule 10月～2016.1月

就職指導課

10
October

- 10月上旬～下旬 各種業界研究ガイダンス
各種公務員業務説明会
内定者による活動報告&相談会
SPI3対策講座(10月コース)★
- 10月上旬 未内定者のためのフォローアップセミナー(全学部合同)
- 10月1日(木) エントリーシート攻略テスト★
R-CAP(自己診断テスト)★
- 10月5日(月) 業界・企業・職種研究セミナー①(総論)
業界・企業・職種研究セミナー②(金融、ITほか)
- 10月15日(木) 元人事担当者による特別講演
- 10月中旬 就活SNSガイダンス
- 10月19日(月) 業界・企業・職種研究セミナー③(小売、マスコミほか)
業界・企業・職種研究セミナー④(まとめ)
- 10月21日(水) 日経講座「ビジネスの基本」①②★
- 10月22日(木) 日経講座「ビジネスの基本」③④★
- 10月24日(土) キャリア教育講座
- 10月28日(水) 日経講座「ビジネスの基本」⑤★
- 10月下旬 SPI3対策テスト(第2回)★

11
November

- 11月上旬～下旬 各種業界研究ガイダンス
内定者による活動報告&相談会
- 11月上旬 SPI3WEBテスト説明会
- 11月5日(木) エントリーシート攻略テストフォローガイダンス
R-CAP(自己診断テスト)フォローガイダンス
- 11月7日(土) キャリア教育講座
- 11月12日(木) 自己表現力向上ガイダンス(校友会共催)
- 11月中旬 SPI3対策テスト(第2回)★
リクナビ・マイナビを使った就職活動の進め方ガイダンス
- 11月下旬 業界研究ガイダンス(応用編)
面接対策ガイダンス
公開模擬面接
SPI3WEBテスト★
TOEIC講演会
- 11月28日(土) OB・OG就職相談会(校友会共催)

12
December

- 12月上旬～下旬 各種業界研究セミナー
- 12月中旬 未内定者のためのフォローアップセミナー(全学部合同)

1
January

- 1月上旬～下旬 各種業界研究セミナー
- ※10～11月の★印は有料、要事前申込み。
※各行事の日程等詳細は、就職指導課(10号館2階)にて確認してください。

教務課 学生課 研究事務課 エクステンションセンター 入学センター 大学院事務課

- 10月3日(土) 日本大学創立記念日の振替休日(休講)
- 10月4日(日) 日本大学創立記念日
- 9月28日(月) 本部招聘(ゼーエア先生) ㊟
～10月9日(金)
- 10月9日(金) 学術交流
～17日(土) (ヨハネス・グーテンベルク大学 グルバー先生) ㊟
- 10月12日(月) 「体育の日」は通常どおり授業を実施 ㊟
第4回法務研究科進学相談会 ㊟
- 10月12日(月) 履修登録中止期間(後学期開講科目) ㊟
～13日(火)
- 10月17日(土) 第38回法律討論会 ㊟
- 10月24日(土) 定期無料法律相談会 ㊟
- 10月下旬 平成28年3月卒業及び留年に関する
手続き期間(4年次生対象) ㊟
- 10月下旬～11月中旬 セミナール説明会・公開ゼミナール
(2年次生対象) ㊟
- 10月31日(土) 第36回法検祭準備日(休講) ㊟

- 11月1日(日) 第36回法検祭(休講) ㊟
～3日(火) 行政なんでも相談 ㊟
- 11月4日(水) 第36回法検祭後片付け(休講) ㊟
- 11月23日(月) 「勤労感謝の日」は通常どおり授業を実施 ㊟
- 11月29日(日) 巡回無料法律相談会(三島市) ㊟
- 11月30日(月) 第5回法務研究科進学相談会 ㊟
- 11月中旬 セミナール入室申込期間(2年次生対象) ㊟
- 11月下旬 セミナール入室試験(筆記)(2年次生対象) ㊟
- 11月下旬～12月上旬 セミナール入室試験(口述)(2年次生対象) ㊟

- 12月1日(火) クリスマスイルミネーション点灯式 ㊟
- 12月12日(土) 定期無料法律相談会 ㊟
- 12月19日(土) 平成27年度日本大学法学部資格試験等
合格者褒章授与式 ㊟
- 12月23日(水) 「天皇誕生日」は通常どおり授業を実施 ㊟
- 12月24日(木) 授業回数調整のため、土曜日の授業を行う ㊟
- 12月25日(金) 授業回数調整のため、月曜日の授業を行う ㊟
- 12月26日(土) 1年次生英語一斉テスト ㊟
- 12月26日(土) 冬季休業 ㊟
～1月8日(金)

- 1月9日(土) 授業開始 ㊟
- 1月14日(木) 補講期間 ㊟
～15日(金)
- 1月15日(金) 平成28年度転部(第一部、第二部間)・転科選考
～29日(金) ㊟
- 1月17日(日) 日本学生支援機構奨学金継続手続き入力期限 ㊟
- 1月18日(月) 後学期特別授業期間 ㊟
～29日(金)
- 1月29日(金) セミナール論文提出締切日 ㊟
※第一部17:00まで。第二部19:00まで。
提出期限を過ぎたものは、理由の如何を問わず受理しません。
- 1月30日(土) 春季休業開始 ㊟

※各学事についての詳細は、各担当課にお問い合わせください。 ㊟ 教務課 ㊟ 学生課 ㊟ 研究事務課 ㊟ エクステンションセンター ㊟ 入学センター ㊟ 大学院事務課



日本大学法学部ジャーナル
Journal
2015 vol.16 October ◯ January
2015年10月1日発行 日本大学法学部広報 通巻124号 発行:日本大学法学部企画・広報委員会

<http://www.law.nihon-u.ac.jp/>
詳細情報は、随時掲示板およびホームページを見て確認してください。

「日本大学法学部 Journal」のバックナンバーは、法学部ホームページにてご覧いただけます。
<http://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/pr.html>

新法学部長に聞く

前法学部長の任期満了に伴い、本年7月1日より新法学部長に池村正道教授が就任しました。
任期は3年間。本学法律学科出身で、長く本学での学生教育に携わってきた池村法学部長。
新法学部長に「司法の日大」の復活と学部改革にける意気込みを語っていただきました。



日本大学法学部長
池村正道

いけむら まさみち●1948年、新潟県生まれ。1972年本学法学部法律学科卒。1975年明治大学大学院法学研究科修士課程修了。1983年専修大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。同年本学法学部助手。1986年本学通信教育部専任講師。1995年同助教授。2001年本学法学部助教授。2003年同教授。2015年7月、法学部学部長に就任。

「自主創造の基礎」をさらに充実させていきたい

本学部は、学部創設125年を超える長い歴史と伝統を誇る学部です。そして私たち日本大学の教育理念は、知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、新しい道を切り開いていくという「自主創造」です。その原点に戻って学生たちを教育し、社会に貢献できる人材を育てていきたいと思っています。

全学共通初年次教育科目の「自主創造の基礎」は、法学部が他に先駆けて始めたものですが、たいへん好評です。単に知識を詰め込む授業ではなく、グループワークや発表を通してコミュニケーション能力の向上を図り、また社会に出る上で不可欠な素養を身に付けてもらいます。自ら能動的に勉強する姿勢を教育していくわけですが、その内容を改善しつつ、さらに充実させていきたいと思っています。

「司法の日大」にふさわしい人材育成を強化します

本学部は、法律、政治経済、新聞、経営法、公共政策の5学科から構成される社会科学の総合学部として、学生の関心や進路に対応した多様な専門教育を展開しています。

また、より高度な専門教育を提供する場である大学院は、従来の法学研究科、新聞学研究科、知的財産研究科に加え、今年の4月からは法務研究科（ロースクール）が法学部の所管となりました。これにより、法務研究科と一層の連携強化を図り、「司法の日大」の名にふさわしい人材育成が可能となりました。たとえば、法務研究科の先生方が、法学部の授業や民法などの試験科目のゼミナールを担当することで学生の理解も深まり、本学の法務研究科へより進学しやすくなることが理想です。

そして司法試験合格者を増やし、「司法の日大」を復権させたいと考えています。そのための体制作りを急ピッチで進めておりますが、法学部と法務研究科双方の先生方が一致協力して取り組む事が不可欠です。これは短期間では難しく長期的に考えて、結果を残せるよう法務研究科の先生方とも協力していきます。

より良い教育の提供のためにさまざまな学部改革を

ほかにも、時代の志向に合わせ、より良い教育を提供するための学科の再編成も考えていきます。また第二部法律学科についても、都心の立地を生かし、多くの社会人が入学できるようなシステムを立ち上げるなどの活性化対策が必要です。この2点は長年議論してきたことなので、今年度中には一定の方向性を出したいと思っています。

さらに入学志願者獲得に向けた取り組みとしては、地方からの入学志願者のために入学試験の回数や会場を増やすなどの対策を検討しています。また、入学後にミスマッチを感じる学生を減らすためにも高校での説明会を積極的に行い、本学部の特徴を理解してもらうよう努力を続けていきたいと思っています。

学生の皆さんへのメッセージ

一人ひとり目的を持って入学されたのですから、その目的を実現できるよう努力してください。教職員が皆さんをしっかりサポートします。学生自らが教職員に遠慮なく相談してほしいと思っています。相談してもらえれば、それにふさわしい対策を考えます。また、まだ目的を見つけない学生は、できるだけ早く見つけることで、その後の学生生活も変わってくるでしょう。

Contents

- 2 **新法学部長に聞く**
法学部長 池村正道
- 4 **[特集]**
ジャーナリズムとメディアの教育・研究
Chapter 1
新聞学科の新カリキュラム
一人ひとりのニーズにあわせた「オーダー・メイド・カリキュラム」
法学部 塚本晴二郎教授
- 6 Chapter 2
法学部校友会のバックアップ
マスコミ業界研究セミナー
学生サポーターインタビュー
Special Interview
法学部校友会
柴田秀一幹事長
- 8 Chapter 3
OB・OGインタビュー
マスコミ業界で活躍する先輩からのメッセージ
渡邊多聞子さん
(ヤマハミュージックパブリッシング)
最上翔さん
(神奈川新聞社)
吉田晃子さん
(ジュビターテレコム)
- 10 **就活up!**
第4回
就活スケジュールの正しい理解を
就職支援プログラムに積極的に参加しよう
- 11 **留学Life**
Vol.4
そこが知りたい 留学Q&A
派遣・交換留学生 体験レポート
- 12 **日本大学法学部**
Event Schedule
(10月～2016年1月)

新聞学科の「オーダー・メイド・カリキュラム」

～将来めざす進路にあわせて自由に履修モデルを組み立てられる～

法学部新聞学科は、新聞・放送などのマス・メディアから、広告、コンピュータなどの情報メディアまでを視野に入れ、ジャーナリズム、メディア、コミュニケーション、情報に関する知識を学びます。2014年度より、学生一人ひとりに対応する「オーダー・メイド・カリキュラム」を採用。1年

次に情報発信の基礎力を養う必修科目を学び、2年次からは将来めざす進路に合わせて履修科目を自由に“オーダー・メイド”することができます。これにより、ジャーナリスト、メディア関連企業、ITメディア・コンテンツ制作や情報管理を行う企業などで活躍する人材を育成します。

4年間の学びの流れ

	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目	大学の学びとは何かという基礎から、将来のためのキャリア・デザイン、コンピュータの基本的スキル、インターンシップなどを開講。			
総合科目	専門科目とは違った分野を学び、幅広い知識と基礎的な理解力・思考力を養う。「心理学」「哲学」「文章表現法」など多彩に展開。			
外国語科目	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語、ロシア語を開講。TOEICやTOEFL対策、留学向けなど多様なニーズをカバー。			
専門科目	「現代メディア社会論」「メディア・コミュニケーションの科学」「メディア法」「メディア・テキストの基礎」など、新聞学科の基礎科目を1年次にすべて学ぶ。	履修モデル選択 1年次に教員と相談、指導を仰ぎ、自分が進みたい領域に合わせた最適なカリキュラムを組み立てる。めざす分野の基礎を専門的に学んでいく。	2年次に選んだ分野をより専門的に深め、実習、演習などを組み合わせながら、応用的な知識と実践を学ぶ。 ゼミナールでの専門的な研究やディスカッション、プレゼンテーションを通して、分析力・表現力をより高める。	

履修モデルの一例

ここに記した5つのモデルは、具体的なイメージを持ちやすくするための目安です。これをベースに、自分はどんな領域をめざすのか、教員とじっくり話し合しましょう。

- ジャーナリズム・モデル** 記者・編集者など報道の第一線に立つ人材を育成します。
- 広報広告モデル** 広告ビジネスや広報などクリエイティブな人材を育成します。
- メディアコンテンツ・モデル** 音楽や映画などさまざまなコンテンツを制作する人材を育成します。
- ネットメディア・モデル** ネット系企業や情報通信分野で活躍する人材を育成します。
- 出版メディア・モデル** 雑誌や書籍などの出版物の製作に携わる人材を育成します。

2年次のカリキュラムの一例

今年度の履修科目からモデル別のカリキュラムの一例。めざす方向によって、これだけ多様な科目が用意されています。カリキュラムは学生ごとに無限大に組み立てられます。

共通科目	ジャーナリズム・モデル	広報広告モデル
【共通科目】【総合科目】【外国語科目】 キャリア入門またはキャリア・ディベロップメント 文章表現法 英語関連科目 選択必修外国語科目 スポーツ記者志望の場合(体育スポーツ科学) 社会部記者志望の場合(社会学) 出版メディア志望の場合(芸術論、日本文学、世界文学)	【専門科目】 ニュース英語 政治コミュニケーション グローバル・コミュニケーション 日本ジャーナリズム史 ジャーナリズム倫理 ローカル/コミュニティ・メディア フォト・ジャーナリズム 調査ジャーナリズム 行政広報論 憲法 政治部記者志望の場合(政治学原論、政治学) 経済部記者志望の場合(経済学)	【専門科目】 ニュース英語 コミュニケーション調査 政治コミュニケーション 異文化メディア 日本ジャーナリズム史 メディア史 メディア/情報産業 広告コミュニケーション メディア・ビジネス 憲法 マーケティング論 知的財産権法 行政広報論
メディアコンテンツ・モデル	ネットメディア・モデル	出版メディア・モデル
【専門科目】 ニュース英語 政治コミュニケーション 異文化メディア 日本ジャーナリズム史 メディア/情報産業 映像/デジタル・ジャーナリズム メディア・ビジネス 憲法 知的財産権法 行政広報論	【専門科目】 ニュース英語 コミュニケーション調査 グローバル・コミュニケーション メディア史 出版メディア 情報法 メディア・ビジネス 憲法 情報通信政策 行政広報論	【専門科目】 ニュース英語 政治コミュニケーション 異文化メディア 日本ジャーナリズム史 ジャーナリズム倫理 出版メディア 憲法 行政広報論

ニュース検定とは? ニュース時事能力 検定試験

新聞やテレビのニュース報道を読み解くための「時事力」を認定する検定試験。1級から5級まで6段階あり、新聞社などの就職試験に有利な2級を、新聞学科では多くの1年次生が受験しています。

さらに専門的に学ばなら

日本大学大学院 新聞学研究科

Graduate School of Journalism and Media

問い合わせ 法学部教務課大学院入試係 ☎03-5275-8502 E-mail: kyomu@law.nihon-u.ac.jp http://nihon-u-gs.jp/journalism/

ジャーナリストと研究者の養成、現役ジャーナリストのリカレント教育

新聞学研究科は、法学部新聞学科を母体として創設されたジャーナリズム、メディア、コミュニケーションを学ぶ研究科です。ジャーナリストや研究者の育成、さらに新聞記者など現役ジャーナリストのリカレント教育を目的としています。カリキュラムは、歴史、理論、制度を中心に、法学、政治学、社会学などの関連領域を併せた科目で構成。さまざまな学問領域からジャーナリズムにアプローチできる体制を整えています。ジャーナリスト、研究者志望の人はもちろん、「コミュニケーションの世紀」を担う人を歓迎します。

特集

ジャーナリズムと メディアの教育・研究

新聞、放送、広告、出版、ネットメディア、エンタメなど、日本のマスコミ業界に数多くの人材を輩出している法学部。今回はその中心を担う新聞学科にスポットを当て、伝統のジャーナリズム教育と最新カリキュラム、OB・OGの声などを紹介します。

The Department of Journalism Chapter 1
新聞学科の新カリキュラム

一人ひとりのニーズにあわせた 「オーダー・メイド・カリキュラム」

日本で唯一、法学部にある新聞学科。「新聞学科」とは「ジャーナリズム」の訳語を「新聞」としたことから名付けられ、戦後すぐにジャーナリストを養成するために創設されました。現在では多様な情報メディアで活躍する人材を育成しています。その歴史的な背景、法学部に新聞学科がある意義、そして注目の新カリキュラムの内容などを、法学部・塚本晴二郎教授に伺いました。

日本の民主主義のために GHQの指導により創設

新聞学科は1947年(昭和22年)に創設された歴史と伝統を誇る学科です。戦後、GHQが日本の民主主義の発展のために健全なジャーナリズムを根付かせようと、主要大学にジャーナリストを養成する学科を置くよう指導したのが原点です。本学では当時の主要紙のひとつ「国民新聞」の主筆として活躍された長谷川了先生が中心となって新聞学科が創設されました。「なぜ新聞学科が法学部にあるのか」と聞かれることがあります。ジャーナリズムを学ぶならば、法学部にあってしかるべきなのです。ジャーナリズムというのは、司法、立法、行政に連なる民主主義のシステムのひとつです。法律や政治といった社会の諸制度をわかっていなくては理解することはできません。法学部に新聞学科があるから

こそ、法学や政治学などを踏まえたうえで、ジャーナリズムやメディアを多角的に学べるのです。

教員と一緒に作っていく 自分だけのカリキュラム

新聞学科では2014年度から新カリキュラムをスタートさせました。現在の多様な情報メディアの発達に伴い、あらかじめ決められたコースではなく、学生一人ひとりが将来目指す業界に合わせたカリキュラムを、教員と学生と一緒に相談しながら作っていくというもので、それを我々は「オーダー・メイド・カリキュラム」と呼んでいます。そのために新聞学科では、まず必修科目を1年次にまとめました。1年次に基礎的なものをすべて学び、その中で自分の進むべき道を見つけ、2年次以降のカリキュラムを教員と相談しながら決めていく。そして2年次で自分の将来の進路の土台を作り、3年、4

年次と実践的に積み上げていくのです。将来の目標が決まっている学生も、まだ何をしたいのかわからないという人も、とにかく相談に来てください。そのために1年次には少人数で教員と会話できる科目を設定するなど体制を整えてあります。そういうことを全部含め、学生と一緒に作っていくことと立ち上げたカリキュラムなのです。将来メディア業界に進みたい学生にとって、新聞学科は恵まれた環境です。メディア業界に数多くのOB・OGがいますし、最新情報は新聞学研究科主催の特別講座で勉強できる。また、新聞社などの就活に欠かせない「ニュース検定」2級も、本学では多くの1年次生が受験し、合格率も全国平均4割のところ7割を超えています。これから長い伝統に培われたノウハウを駆使して、ジャーナリストやメディア業界をめざす学生を全面的にバックアップしていきます。



法学部 塚本晴二郎教授

「第9回マスコミ業界研究セミナー」

**マスコミ業界で活躍する本学OB・OGが約40名来校
現役生が直接アドバイスをもらえる大好評セミナー**

法学部と法学部校友会の共催による恒例の「マスコミ業界研究セミナー」が、去る6月27日(土)、10号館にて開催されました。マスコミ業界志望の学生をバックアップするため2007年にスタートしたこのセミナーも、年々規模を拡大し、今年で9回目を迎えます。当日は「放送」「新聞」「出版」「広告」「エンタメ」の各業界の最前線で活躍する法学部OB・OG約40名が全国から駆け付けてくださいました。

セミナーは今年も2部構成で開催されました。第1部は1011講堂にて、放送・新聞・出版・広告・エンタテイメントの5業界の代表者が、仕事の内容や業界の現状、採用試験の心構えについて講演。参加した約270名の



柴田校友会幹事長のあいさつで第1部が開幕



◀第2部はOBを囲んでの車座質問会。放送業界からは野村邦丸さん(文化放送アナウンサー)をはじめ14名が出席

▶新聞・出版業界からは榎本哲也さん(東京新聞・立川支局長)をはじめ16名が出席

学生は熱心に耳を傾けていました。第2部では業界ごとに10号館の各講堂に分かれての業界別質問会。OB・OGを囲んでの車座質問会は、志望する業界の先輩と直接話ができる貴重な機会です。学生の質問や相談に先輩方が親身になって答えてくれました。企画・運営を現役生の学生サポーターが担っているのも特徴です。このセミナーをきっかけにマスコミを志す学生も多く、マスコミ業界への就職者も年々増えています。

参加企業 (順不同)

- (株)日本経済新聞社 (株)中日新聞社 (株)神奈川新聞社 (株)PHP研究所 (株)講談社 (株)電通テック
- (株)博報堂 (株)東急エージェンシー (株)ヤマハミュージックパブリッシング 日本放送協会 (株)TBSテレビ
- (株)フジテレビジョン (株)文化放送 テレビ朝日映像 (株) エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ (株) ほか

マスコミ業界研究セミナーを企画・運営する「学生サポーター」って?



「マスコミ業界研究セミナー」は、現役生の学生サポーターによって企画・運営されています。メンバーは毎年セミナー開催時に募集され、現在は1〜3年生で36名在籍。もちろん全員マスコミ志望です。統括チーフの高林さんをはじめ4名のサポーターに話を聞きました。

高林「活動としては、次回セミナーの構成についてはサポーター会議のほか、当日の配布資料作成では、OBインタビューや業界研究を半年くらいかけて行います。佐々木「各人の志望によって、放送・新聞・出版・広告・エンタメ業界に分かれて取材します。先輩方に直接話を聞けるのは貴重です。」

島田「いろんな業界を多角的にみることで、勉強になります。」川岸「先輩方がしてくださったサポートを、今度は後輩たちに伝えていこうと思います。」

「セミナーの成功はもちろん、僕らの最終目標はちゃんとマスコミ業界に就職すること。多くの先輩方と築いた関係を大切に就職活動に生かしたいと思います」と高林さん。マスコミ業界志望の人は、次回セミナーにぜひ参加して、学生サポーターに応募してみてください。

扉は叩かないと開かれない

マスコミ業界研究セミナーは自分の学生時代にほしかった

私が法学部校友会の活動に参加するようになったのは、たまたま全国校友会の司会をやらせていただいたときに当時幹事長だった中村会長がご覧になっていて、お誘いを受けたのがきっかけでした。ちょうど「朝ズバッ」という番組をやっている午後が比較的空いていたので、正式に入ることにしました。そうしたら、何かイベントがで

きないかという話になって、だったら「マスコミ業界研究セミナー」というのはどうかと提案したんです。私が考える校友会の行事は、自分が学生時代にあったら良かったなあというのが原点です。他にも「OB・OG就職相談会」やホテルでの「卒業祝賀会」、昨年から秋に「ホームカミングデー」を開催するなど、校友会の共催でいろいろな行事をやっています。だから私は仕事してないのかと思われますが、ラジオとかちゃんとやっていますよ(笑)。

日本中に多くのOBがいる それこそが日大生の強み

マスコミセミナーは、2007年にOB・OGわずか7人でこじんまりと始めたんです。それが今回の第9回では、出席のOB・OGが40名を超え、270名の学生が参加してくれました。マスコミセミナーの目的は、マスコミ志望の後輩たちをサポートしたいということと共に、OB・OGの横のつながりを作っていくというのもあり

ました。日本大学は他の大学に比べてOB・OGはたくさんいるのに横のつながりがない。人数が多いというのは、活躍している人もたくさんいるわけですから、それが日大出身者の強みなので、それを学生にもOB・OG自身にも、うまく利用してほしいのです。

また、2010年からはマスコミセミナーの学生サポーターの募集を始めました。大学というところは、自分から望まない限り、何も出てこない。でも望めば与えられる場があるんです。それを実践してほしい。サポーターたちに企画運営を任せ、学生がまず考えるというのを優先しました。そして、彼らが卒業して、将来はOB・OGとしてマスコミセミナーに帰ってきてくれるのが一番の願いです。



Special Interview

法学部校友会幹事長 **柴田秀一** さん

1981年 政治経済学科卒

1957年、神奈川県生まれ。1981年、TBS にアナウンサーとして入社。『みのもんたの朝ズバッ!』などの番組を担当したほか、報道局で記者・ディレクターも経験。現在はTBSテレビ編成局次長アナウンス部エキスパート職、報道局解説委員、TBSラジオニュースデスクを担当。本学法学部と大学院新聞学研究科の非常勤講師も務める。

実は来年の第10回に向けて、今回でマスコミセミナーでの私の役割は終わったかと思っているんです。次回からは校友会側のチーフを次の世代に任せて私は一段引こうと思います。ただ第10回記念については、すでに着々と話が進んでいるので楽しみにしてください。扉は叩けば開かれる場合があるが、でも叩かないと扉は開かれない。まずは叩いてみることに。とにかくすぐに動きだしてほしい。それが私から学生の皆さんへのメッセージです。

マスコミ業界で活躍する先輩たち

マスコミ業界には法学部のOB・OGが数多く活躍しています。とくに近年は、女性の進出が目覚ましいものがあります。そこで今回は、音楽業界の仕事に携わる渡邊さん、J・COMの吉田さんの女性2人と、新聞社で活躍する最上さんの3人の先輩に、具体的な仕事の内容とやりがいを感じるどころ、そして法学部の後輩へのメッセージを寄せていただきました。

大好きな音楽に携われる仕事を

—現在の仕事の内容は？

ヤマハミュージックパブリッシング
グ(以下YMP)は音楽出版社で、私は原盤制作セクションにて、編成管

理と制作デスクを担当しています。音楽出版社では楽曲や映像のことを「原盤」と呼んでいて、音源やビデオクリップを制作している部署になり

ます。具体的には、所属ミュージシャンの原盤について、いつ、どんなものを制作するか、予算はいくらか、制作結果の経費精算という流れです。制作デスクの仕事は、ミュージシャンと楽曲制作をしている制作ディレクターをバックアップする業務です。

—この業界をなぜ志望されたのですか？

もともと音楽を聴くことやライブに行くことが大好きで、自分でも大学の音楽サークルでバンド活動をしていたので、ミュージシャンをサポートする裏方の仕事が出来たという気持ちが強くなり、当時アルバイトをしていたレコード会社にそ

のまま就職したのがスタートです。その後も会社は変わりましたがずっと音楽業界で働いています。

YMPに来るまでは、おもにレコード会社で営業や宣伝の業務をしていて、音源制作の流れを詳しく知らないままだったのですが、今の担務になってから、どういった手順でミュージシャンが発掘され、育成され、曲が作られ、レコード会社にライセンスされて、CDになって流通していくのかがよくわかりました。自分が関わった音源が、世の中に様々な形で広まっていく過程をみていると、とても充実した気分になりますし、励みにもなります。

—後輩にメッセージを。

学生時代の4年間は長いようで短いですが、欲張りに過ごした方がいい。ぜひいろいろなチャレンジをしてください。疑問に思ったときは、一度立ち止まって考えてみたいと思います。たとえ回り道しても、自分自身が納得することを選んでいくことが大事だと思います。



株式会社ヤマハミュージックパブリッシング

渡邊多聞子さん

1998年 政治経済学科卒 松岡ゼミ(放送論)

新聞社は時間との勝負

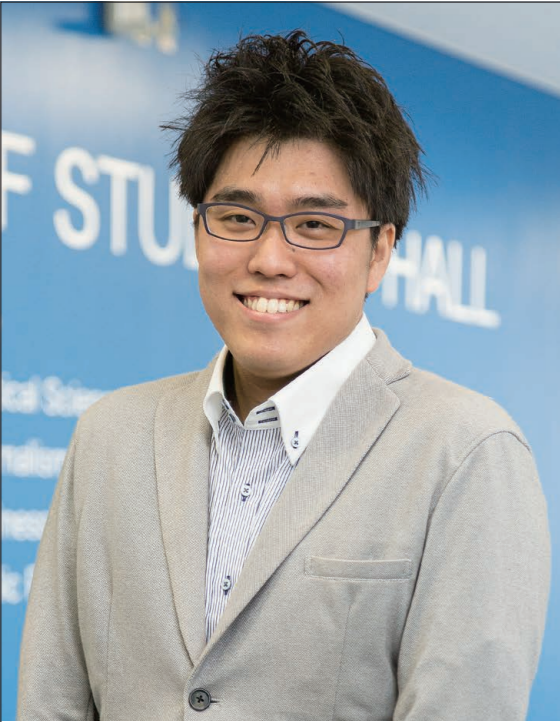
—現在の仕事の内容は？

もともと新聞記者志望で、入社1年目は統合編集局報道部で警察を担当。キャップの指示の下、事件現場を駆け回りました。現在は同局整理部に勤務しています。整理部は新聞の「顔」とも言える、紙面のレイアウトや見出しを考えて組み上げていく部署。自社の記者などから送られてきた原稿からニュース価値を判断し、見出しはどんな言葉を選ぶか、写真ほど大きな大きさにしようかなどを考へながら作り上げていきます。最もやりがいを感じるのは、時間との勝負をしているとき。ニュースは「生き物」なので、降版(締め切り)の

間際に突発的な事件事故が起きれば、分量を測り直し瞬時に作り変えないといけません。額に冷や汗をかきながらの作業は日常茶飯事です。無事に終えたときの充実感は格別です。

—後輩にメッセージを。

新聞は売れない時代だと言われていきます。しかし、「社会の木鐸」とも呼ばれ、権力の監視というジャーナリズムの根幹を果たせるのは新聞だけ。その役割はこれからも必要とされ続けるでしょう。是非、世の中を相手に社会と真正面から向き合える、志の高い人になってください。そしていつの日か、一緒に現場を駆け回る日を楽しみに待っています。



神奈川新聞社

最上 翔さん

2014年 新聞学科卒 岩瀬ゼミ

人との出会いが刺激になる

—現在の仕事の内容は？

09年にジュピターテレコムに入社しまして、現在はケーブルTV事業のグループ会社、ジェイコムイースト西東京局営業部に出向しています。担当の不動産会社(賃貸)を巡回して、J・COM導入物件に新しく入居されるお客さまの居情報を、入居時初期メンテナンスのためにいただいています。外回りの営業なので体力的に辛いこともありますが、日々たくさんの人と接することができ、刺激を受けることが多いです。

—この会社に入ったきっかけは？

私は会社の広報に興味があったので、就職活動をする際に業界・業種

を絞らず、ほとんどの業界を見に行きました。就職活動中は、説明会や面接でお会いする社員の方が、自分の会社を好きかどうかに注目していました。従業員が自分の会社を好きだと言えるところで働きたいと思って、入社しました。

—後輩にメッセージを。

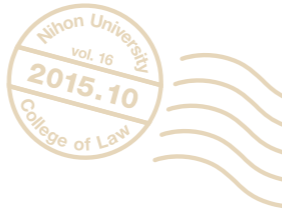
学生生活を思いっきり楽しんでほしいです。いろんな経験をして自分の引き出しを増やすことで、就職活動も自信を持って行えると思います。自分の知らない仕事は世の中にたくさんありますよ。就職活動は、自分の知らないことに接することができ、貴重な機会でもあると思います。



株式会社ジュピターテレコム

吉田晃子さん

2009年 新聞学科卒



●1週間のスケジュール(秋セメスター)

	月	火	水	木	金	土 日
9:00	英語		英語		英語	週末には友人と食事や買い物に出掛けたり、学部主催の校外学習に参加したり。試験前は図書館で勉強漬け。
12:00		フランス語		フランス語		
15:00	ボランティア		ジェンダー		ジェンダー	
18:00				サークル		

英語=「English as a Second Language II」、フランス語=「PLO Elementary French II」、ジェンダー=「SSC Sex and Gender in Society」

政治経済学科4年 堀内志穂さん

TOEFLのスコア、選考試験をクリアして、交換留学生としてアメリカに渡った堀内さんに、留学生活について聞きました。



交換留学先: エリザベスタウン・カレッジ
(米国ペンシルベニア州エリザベスタウン)
留学期間: 2014年8月19日~2015年5月15日
※今回の内容は堀内さんの場合です。留学先などにより異なります。

Q どんな授業を受けていましたか?

A 秋セメスターは3教科、春セメスターは4教科を履修。秋の英語の授業は小クラスで文法、会話、プレゼンテーションなど。フランス語の授業はすべてフランス語で行われました。ジェンダーについて全員で話し合うアカデミックな授業も興味深かったです。

Q 留学中の宿泊先は? 食事は?

A 大学の敷地内にある寮に滞在していました。寮費は1セメスター63万円ほどで、食事代も込みなので、食事は学校内のカフェテリアやコンビニなどで。移動時間や食事を気にせず存分に勉強に集中することができました。

Q 滞在中の費用はどれくらいかかりましたか?

A 寮費は食事代など諸経費がすべて込みなので、学校の中ではこれ以外の支出はありませんでした。あとはテキスト代や、友人と外食に出掛けたりしたほか、冬休み中は寮が閉鎖してしまうため旅行をしたので、総費用は200万円弱くらいです。



堀内さんが滞在していたMyer寮

Q 次年度の交換留学生にアドバイス

A 学費や渡航費は大学から支給されましたが、寮費などは学校によりばらつきがあるので、そういう経費のことも視野に入れて留学先を検討すると良いと思います。そして準備期間は何事も早め早めの行動が大切です。

●9ヶ月間の現地での費用

(交換留学生の場合は、現地大学での学費は免除)

寮費(宿舍費、食費など)	約127万円(2学期分)
生活費、通信費など	約50万円
テキスト代など	約3万円
交遊費など	約20万円
合計	約200万円

※1ドル122円で換算。現地での費用は個人差があります。

■派遣・交換留学生 体験レポート

なりたいたい自分になる

堀内志穂

私は、留学に応募するにあたって、志望動機にこのように書いていました。「自分にとって留学とは自分のなりたいたい将来像への挑戦、また留学で学ぶことは座学であっても、人との出会いであっても自分の視野を広げる大きなポイントになると確信している」。この思いは、留学が終わってからも変わることはありません。留学で学ぶことは本当に沢山ありました。図書館で分厚い教科書とらめっこする時間も、なかなか授業についていけなくて落ち込んだ日々も、今となってはとても貴重な時間でした。様々な人との出逢いや文化交流を経て、自分の視野も少しは広がったかなと実感することができました。

この留学で得た、1番大事なものは、同志でした。言葉の壁や、文化の壁があろうとも真心を持って真摯に人に向き合えば、必ずわかってくれます。家族や友人、住み慣れた町を出ての暮らしは決して楽なものではありませんでした。しかし、支えてくれたのは各国からきた同志の皆でした。共通



ニューイヤーのイベントを友人と(NY)

する言語は英語しかありませんでしたが、それでも私たちが繋ぐには十分でした。お互いの文化を理解しあい、ときには摩擦を繰り返しながらも信頼関係を築き上げることができたのは一生の財産になりました。

この留学を通して、私はまた1歩なりたいたい自分に近づけたのではないかと感じました。そして、新たな夢や目標も見つけることができました。次は、そこに向かって邁進していくのみです。留学することは、予想以上に自分を強くさせるものだと思います。自分が気付かなかった自分に会えるチャンスでもある私は思います。学生という感性は今しかないものです。ぜひ、一度皆さんも外の世界を肌で感じてみませんか。新たな自分に出会えることも、異文化の中でもみくちゃにされるのも今だからこそ、できることです。

■留学についてのご相談は法学部教務課までお問い合わせください。

今年の就活の最新情報を発信!

就活 up!

自己分析、企業研究、 3年次までに単位取得など 早め早めの行動が重要です

第4回 就活スケジュールの 正しい理解を

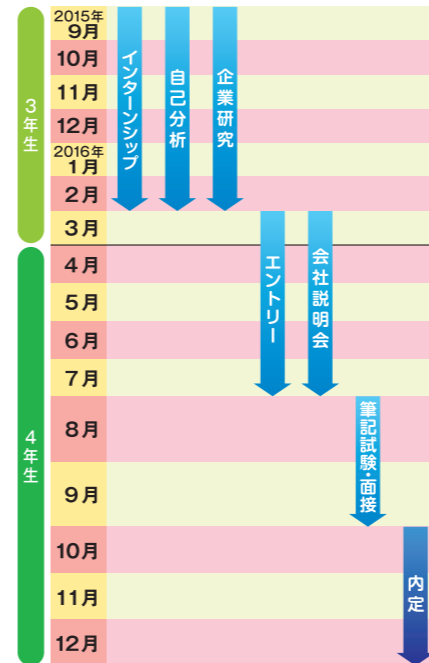


就職指導課は法学部10号館2階にあります

今年から企業の広報活動開始(エントリ、説明会、ES、Webテスト等)は3月1日、採用選考開始(面接、グループ選考、筆記試験等)は8月1日となり、就職活動準備期間は長期化するものの、実質の活動時間は短期決戦と予想されました。

しかし、実際は8月1日を待たずに採用選考を開始した企業も多々見受けられ、その結果、早期から情報収集等積極的に行動した学生と、そうでない学生との差は歴然で、内定を獲得できる学生とできない学生のいわゆる二極化が顕著化し、また、8月から選考を開始した大手・有名企業についても同様のことが見受けられたようです。

就活スケジュール早見表



こうした事態を踏まえ、早くから自己の進路を見極め(自己分析)、志望する企業はどのような業態で、どのような人物を求めているのか(企業研究)を早期から始め、あわせて採用選考における筆記試験・面接試験の準備をしておくことが望まれます。また4年生になつて就職活動に専念できるような3年次までの配当科目については4年生まで持ち越さないよう単位取得しておくことも重要です。

就職指導課では諸君の就職活動を全面的にサポートしていますので、いつでも相談にきてください。悩む前に行動を起こすこと、これこそが就職活動の第一歩です!(就職指導課)

就職支援プログラムに積極的に参加しよう

就職指導課では、年間を通じてさまざまな就職支援行事を開催しています。3年生を対象に、この秋もさまざまなプログラムを行っています。また、今年から採用選考が8月解禁となったのを受けて、4年生の未内定者のためのフォローアップセミナーも随時行います。ぜひ積極的に利用してください。



自己分析・エントリーシート作成ガイダンス

面接対策の基本になる自己分析のポイント、採用試験で必須となるエントリーシート作成のポイントなどについての講演



OB・OG就職相談会

約50社の民間企業から入社2~5年目を中心とする約90人のOB・OGを招聘しての相談会



業界研究セミナー

大手人気業界の方を招聘し、各業界の動向等についての講演

3年生

4年生

- 【前期】
- 総合就職ガイダンス
 - インターンシップガイダンス
 - 就職マナーガイダンス
 - マスコミ業界研究セミナー(全学年) ほか
- 【後期】
- 自己分析・エントリーシート作成ガイダンス
 - 会社四季報を使いたい会社の選び方ガイダンス

- 夏季学内合同企業セミナー
- 未内定者のためのフォローアップセミナー ほか

1・2年生

- 各種公務員業務説明会
- 業界・企業・職種研究セミナー
- 元人事担当者による特別講演
- 内定者による活動報告会&相談会
- 自己表現力向上ガイダンス
- 面接対策ガイダンス
- OB・OG就職相談会
- 企業研究セミナー
- 合同企業研究会・就職セミナー ほか
- キャリアプランガイダンス
- キャリア教育講座
- エントリーシート攻略テスト ほか

後期の就職関係行事の日程は就職指導課にお問い合わせください。